

# 公益財団法人 公害地域再生センター(あおぞら財団)

## 2015(平成27)年度 事業報告書

### I. 2015年度の総括

---

公害で疲弊した西淀川地域を人と環境に優しい地域に再生させていくこと(地域再生)を目指して設立された財団も、来年9月には満20年を迎える。

財団は、昨年度も、各分野ごとの事業計画で示した取り組み、事業を継続発展させてきた。

同時に、財団を取り巻く状況の変化、この間の取り組みや事業の成果や実績、財団への期待、財団の問題点等を踏まえて、設立20周年を新たな財団のスタートの節目していくために、今年2月の理事会において、設立趣旨や目的の再定義、それを基礎にした事業分野の整理、統合を行い、内部諸規定の整備等も行った。

なお、今年度も、事業収入が減少するなど厳しい財政状況になった。

## II. 個別事業

### <<地域づくり>> 公害のない住みよい地域づくりを進める活動

#### 「地域づくり」の目指すところ

西淀川公害からの教訓をいかし、公害によって疲弊した地域の環境再生、及び、持続可能な地域社会づくりをすすめていくため、環境再生・交通まちづくりに関する調査・研究・事業などに取り組む。

#### 2015 年度時点での到達点(3 年計画からの振り返り)



- 3 年計画では、西淀川再生プロジェクトとして、「環境・福祉・防災」の3つの視点から、人と人とのつながりをつくりながら、持続可能な地域や交通環境づくりを目指していく、としている。
- 道路連絡会を年一回開催しているが、抜本的な環境改善や歌島橋交差点の横断歩道撤去問題の解決は進んでいない。
- 防災の取り組みとして、平成 25, 26 年度に引き続き、「災害時要援護者支援推進事業」を西淀川区から受託し、要援護者の支援、福祉避難所の体制づくりなどの検討を行った。
- アートを通じた地域資源の掘り起こし・交流を目的とした「みてアート（御幣島芸術祭）」の第3回を開催し、多くの参加を得た。
- 菜の花プロジェクトでは、「エコでつながる西淀川」を設立し、廃油回収・廃油キャンドルナイト・菜の花栽培を実施した
- 地域交通まちづくりの推進として、「自転車文化タウンづくりの会」や「大阪でタンデム自転車を楽しむ会」と連携して、自転車を活かしたまちづくりの推進を図ってきた。

#### 地域づくり 2015 年度 of 取組み

##### 1. 西淀川再生プロジェクト

###### 1) 西淀川地域の「今」を知るための実態調査

- 西淀川から住まいと暮らしを考える環境住宅研究会（Green）の継続実施（定例研究会、西淀川区の建替・人口移動調査、防災対策の試行、サブリース事業など）
- 4/23、8/20、9/7、9/28 に実施。井上邸の活用について検討。

###### 2) 西淀川における「人にも環境にもやさしい地域交通まちづくり」の推進

###### (1) 西淀川道路検討会・道路連絡会を通じた取り組み

- 第 19 回西淀川道路連絡会の開催（2~3 月）に向けて関係機関と調整中
- 実務者ワーキングの実施（10/6、11/30、1/25）、阪神高速と打合せ（9/4）
- 事前打合せ（3 月 10 日）→道路連絡会（3 月 30 日）

###### (2) 持続可能な社会づくりのための協働イノベーションに関する調査・研究

- 大阪大学大学院法学研究科大久保規子教授等が中心となって進めている「持続可能な社会づくりのための協働イノベーション～日本におけるオーパス 3 原則の実現：グリーンアクセスプロジェクト」に参加（2015 年度は「緑の交通政策と市民参加 新たな交通価値の実現に向けて」を大阪大学出版会より出版）。

###### 3) 防災まちづくりの推進

- 西淀川地域をはじめ、各地区の多様な主体と協働で、あおぞら財団のネットワークやセンター機能を活かした防災まちづくりを進める。

実務者ワーキング  
を定期的に実施し  
ている。



西淀川区から  
3 年目の受託  
業務となる。



- 西淀川区・災害時要援護者支援推進事業の推進（福祉避難所連絡会、要援護者支援推進会議、福祉避難所アンケート、合同訓練等）
- 高齢者施設等の地域への社会的・福祉的防災復興資源としての役割に関する研究（4/11-12、5/9-10に東北調査、7/31会議、8/28-29合宿、アンケート入力）
- 「防災記憶の掘り起こし」プロジェクトの継続（JR西日本助成金採択）  
→2/25（木）防災カフェ、3/23（水）えほんの読み聞かせ会
- 「メッシュコードマップを活用した防災訓練(12/22)」ゆめ風基金(梅氏への協力)

#### 4) 地域再生プロジェクト（みてアート・あおぞらイコバ）の推進

- 西淀川ならではの、モノづくりと連携したアートイベントとして、秋に様々な拠点をつなぐ「みてアート2015」を開催（11/7-8）。
- 地域交流スペースである「あおぞらイコバ」では、月2回の「あおぞら野菜市」やフルーツ教室や英語教室などへの貸出などをおこない、本年度は約40万円の貸出収入があった。

#### 5) 菜の花プロジェクトから始める地域循環型社会への取り組み

- 気軽にできる環境問題の取り組みとして西淀川地域での廃油回収と菜の花栽培を広め、企業や町会、学校と連携をし、持続可能な廃油回収の仕組みを確立する。

## 2. 地域交通まちづくりの推進

### 1) 自転車を活かしたまちづくりの推進

- 自転車文化タウンづくりの会事務局として、御堂筋サイクルピクニック（4/21、9/20）等を実施。
- 「大阪でタンデム自転車を楽しむ会」との連携により、タンデム自転車体験会の開催協力など、視覚障害者をはじめ誰でも自転車を楽しめる環境づくりに取り組む（(定例会5/19、8/21、ツアー8/30 総会6/21）  
→velocity2016 台湾にてパネル報告。
- 中央区放置自転車対策事業 D0!Plan、新大阪・西中島南方放置自転車対策事業への協力（都市空間企画研究所受託）
- 西淀川子ども自転車教室の実施（3/26、子ども8名参加）



第9回（9/20）はカーフリーデー2015として実施。アピール走行200名、500名が参加。

## 3. 地域で取り組む交通まちづくりの支援（人材育成、情報発信など）

### 1) 環境フロンティア講座 ～交通まちづくり編の開催

- 実施せず。

### 2) 参加型アセスメント講座の開催

- 実施せず。

### 3) 講座の企画・運営、講師・アドバイザー派遣、コンサルティング

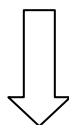
- 徳島市環境リーダー推進事業の企画・運営をサポート。
- 「平成27年度地域と連携した低炭素化推進事業（大阪市/中外テクノス）」

### 2016年度に向けた課題

- 幅が広がりつつある地域づくりではあるが、環境再生・地域再生の取り組みとして継続できる体制・事業内容にしていく。

## <<資料館>> 資料館の運営とネットワークづくり

### 「資料館」の目指すところ



公害克服の経験を発信することで、人々の公害問題への関心を高め、二度と公害の起こらない、安心して暮らせる社会環境づくりを目指す。そのために、公害から現在を読み解き、地域史の中の一つとして捉え、そして公害を知らない人が多数になった現在において、公害を学ぶ意義を捉えなおし、発信していく。

### 2015 年度時点での到達点(3 年計画からの振り返り)

- 公害資料館連携フォーラムを実現させることができた。公害教育の一般化を目指す動きを作ることができた
- 所蔵資料の整理を一段と進めることができた。
- あおぞらイコバでみせを実施することで、西淀川の地域情報を集めて発信することができた。
- 資料館だよりを継続的に発行できた。
- 新規の研修の利用が増えている。

### 資料館 2016 年度の実績(全体)

#### 1) 「西淀川・公害と環境資料館」の日常業務の充実

##### (1) 資料の保存・整理(目録の整備)

- ・ アルバイトの体制を整え、未整理の資料を着実に整理した。

2015年度に整理した資料群

西淀川公害患者と家族の会資料  
西淀川公害患者と家族の会会報『青空』  
傘木宏夫資料  
大阪から公害をなくす会  
福島区公害患者と家族の会

2015年3月31日現在 目録総数 59625点

2014年整理総数 3457点

##### (2) 資料館の情報提供、視察受入、展示

- ・ 資料館見学・研修の受け入れ実施を沢山の人が知ってもらい、公害・環境問題に関する情報提供につとめた。

2015年度来館者 381人 開館以来通算 3619人

<視察受け入れ>

2015年5月10日	西淀川公害教材研究会	
2015年5月13日	JICA 中国 全人代	14人
2015年5月14日	大阪産業大学	
2015年5月29日	大阪大学未来共生博士課程	
2015年6月18日～20日	IATSS フォーラム	25人
2015年7月11日	国立歴史民族博物館	12人
2015年7月19日	みんなで公害を語り合おう	35人
2015年10月8日～9日	環境省職員研修	20人
2015年10月10日	中国環境 NGO 訪問	
2015年10月19日～21日	IATSS フォーラム	25人
2015年10月29日	司法修習生	16人
2015年12月2日	大阪市教育委員会	4人
2015年12月10日	津留崎弁護士ヒアリング(尾崎先生、除本ゼミ)	12人

2016年1月15日	四日市公害と環境未来館研修	20人
2016年2月3日	あいぼーと徳島 人権研修	30人
2016年2月5日	エラスムス計画	15人
2016年2月18日19日	環境省職員研修	13人

<出張授業>

2015年4月3日	淀川勤労者厚生協会新人研修	27人
2015年5月28日	大阪市立大学 除本ゼミ および授業	8人
2015年6月6日～7日	佛教大学	20人
2015年6月12日	大阪大学 未来共生博士課程	20人
2015年7月4日	龍谷大学 先進的地域政策研究	30人
2015年7月10日	大阪産業大学	120人
2015年8月20日	あいぼーと徳島	30人
2015年9月24日	中国経済技術開発区蛍光灯改修プロジェクト	30人
2016年3月12日	川崎フューチャーネットワーク	20人

- ・ 資料館の利用日は原則、毎週月曜日と金曜日の10:00～17:00と定め、スタッフがレファレンスに対応した。
- ・ 国会図書館レファレンス登録データベースに参加した。

(3) 資料館の運営体制の確立

- ・ 毎月1回、小田康徳館長と担当職員による資料館定例会議を継続する。定例会議では、資料館の活動全般の検討、必要な規程の策定などをおこなった。
- ・ 歴史研究者や資料館・博物館等の専門家からなる運営協議会を設置し、専門的な立場からのアドバイスや協力を得られるような体制を継続した。2015年4月8日に運営協議会を開催した

(4) 広報活動（資料館だより、ウェブサイト）

- ・ 資料整理から得られた知見や、館の活動などを『資料館だより』（年4回発行 A4版両面印刷）やホームページ、ブログ等を通じて発信した。

NO. 52（2015年5月）おもしろいわ西淀川大集合を開催しました

NO. 53（2015年8月）JICAの中国全国人民代表会議の研修

NO. 54（2015年12月）水俣市立水俣病資料館にて資料保存の研究会

NO. 55（2016年2月）エコミューズが体験の場に認定

(5) 研究

2015年4月26日	日本アーカイブズ学会大会報告
2015年5月22日	いこま会議（第23回環境自治体会議）
2015年8月23日	環境教育学会大会 口頭発表
2015年9月15日	科研「公害教育運動の再審」発表
2015年9月26日	環境教育学会関西支部例会
2015年12月3日	桃山学院大学地域資料研究会
2015年12月13日	第3回公害資料館連携フォーラム資料保存分科会
2016年3月20日	科研「公害教育運動の再審」セミナーコメント

『桃山学院大学総合研究所紀要』41(2) 2015-12

島田克彦、林美帆「地域資料の保存・活用ネットワークの実践に関する研究 社会の中のアーカイブと研究者の責任：地域資料の保存・活用の実践が目指すもの」

日本アーカイブズ学会『アーカイブズ学研究』（23）2015-12

林美帆「公害資料館利用拡大の試み：西淀川・公害と環境資料館と公害教育」

日本環境教育学会『環境教育』vol.25-1

林美帆「公害を学ぶ今日的意義—公害資料館からみた公害教育—」

## (6) 西淀川地域での活動

西淀川図書館にて

2015年3月19日から4月末まで「おもしろいわ西淀川」の展示を開催した。

## 2) 公害地域の現在を知る、情報を集める、伝える

### (1) 情報発信

千葉と東京の大気  
汚染裁判の記録を  
整理中

- ・ 環境再生保全機構のホームページで2010年度に作成した「記録で見る大気汚染と裁判」の情報を更新する。  
千葉川鉄公害訴訟と東京大気汚染公害裁判の公害資料の整理に着手（2018年度末まで）  
<http://nihon-taikiosen.erca.go.jp/taiki/>

福島の現地の人たち、大阪に非難をしている人たちとのつながりをつくることができた。

### (2) 西淀川でのフィールドワーク環境整備

- ・ 研修用の地図をリニューアルすることを検討した。
- ・ 福島原発事故との公害を学ぶ接点を探すために、大阪在住の避難者の話を聞く会（7月19日）と福島大学の学生を招いて「西淀川公害から何を学ぶ？」（3月27日28日）を開催した。

## 4) ネットワークづくり

### (1) 他の資料所蔵機関等との連携

- ・ 大阪の歴史史料の活用促進を目指す桃山学院大学の地域資料研究会に協力した。
- ・ 公害問題資料を所蔵する各地の団体との連携をはじめ、西淀川図書館や大阪人権博物館、大阪歴史博物館など公の機関との情報交換など、さまざまな団体や機関との連携を図った。

### (2) 公害資料館との連携

公害資料館ネットワークのビジョンを作成。  
四日市でフォーラムを開催した。

- ・ 環境省平成 27 年度地域活性化に向けた協働取組の加速化事業の全国事業として公害資料館の連携を行った。12月11日～13日に四日市公害と環境未来館にて公害資料館連携フォーラム開催し、185名が参加した。
- ・ 公害資料館ネットワークのホームページを開設した  
<http://kougai.info/>
- ・ 公害資料館ネットワークで、協働ビジョンを作成し、公開した。
- ・ 公害資料館ネットワークのパンフレットを作製した。
- ・ エコミューズが環境教育促進法による「体験の機会の場」に認定

## 2016 年度に向けた課題

「公害から学ぶ」可能性が広いことが公害資料館ネットワークの活動を通じて広がってきた。その可能性の一つとして西淀川でのフィールドワークの環境整備を行う中で「運動」や「市民性」を学ぶ意義を明らかにしてきた。それらを普及版として整備すること、そして公害資料館ネットワークでの議論で全国の公害教育の動向を整理して、新しい位置づけをすることがこれから求められている。

大気汚染資料の整理も、西淀川・倉敷・四日市と行ってきて、現在は東京と千葉の整理に取り掛かっている。それらの資料整理の在り方と、2016年度は全国の公害資料館の資料保存・整理・公開について公害資料館ネットワークを通じて議論をして、課題点を洗い出して改善を図る手立てを考えていく。

また、西淀川公害の当事者の高齢化に伴い、オーラルヒストリーの収集を手掛けたい。

## ＜＜環境学習＞＞ 公害の経験や地域資源を活かし、環境まちづくりの担い手育成

### 「環境学習」の目指すところ

人、自然、歴史、文化等、地域の資源を教材とし、公害のないまちづくりを実践する担い手の育成に取り組む。

様々な主体とネットワークを構築しながら、教材作成、講座やイベントの開催、自然観察や調査等を通じ、公害・環境問題を学び、持続可能な社会づくりにむけて行動する場をつくる。

### 2015 年度時点での到達点(3 力年計画からの振り返り)

- 3 力年計画では、課題として①西淀川区内の学校教育機関で実践される環境教育プログラムの企画・立案、②収入が得られる事業にするための仕組みづくり、③西淀川区内の自然環境調査データの活用をあげていた。
- これまでの環境学習の実績を踏まえ教育プログラム集を作成、区内小中学校に配布・発信した。(「2014 年度ドコモ市民活動団体への助成」助成期間：2014 年 12 月～2015 年 11 月を活用)。
- 学校における実践については、小学校 5 年生を対象にした西淀川公害の授業は区内約半数の授業に定着しつつある(語り部の授業：7 校、ビデオ 6 校)。
- 未就学児の教育モデルについては、地域づくり事業「菜の花プロジェクト(ニシヨドガワノラシゴト)」に統合し、活動した。
- 「中島水道サロン」では中島大水道のまち歩きマップを作成した。またサロンの活動について、有志の自発的な運営に移行した。
- 2015 年度より地球環境基金の助成を受け、公害に関する参加型アクティビティ開発およびプログラム整備を進めている。教育関係者に協力を呼びかけネットワークを広げつつある。これらを研修受入等で活用し、収入につなげていきたい。
- 西淀川での四季の環境調査のうち、セミの抜け殻について、約 20 年間続けてきたデータを分析しまとめた(『りべら』138 号、2015 年 12 月)

### 環境学習 2015 年度 of 取組み(全体)

#### 1. 教育機関で取り組む西淀川の公害・環境学習

##### 1) 公害・環境学習についてのプログラム検討会開催及び教育関係者のネットワークづくり

- 開発教育、人権教育など、他分野の教育関係者をゲストに招き、「公害に関する参加型アクティビティ開発研究会」を開催。公害を取り上げた新たな参加型プログラムを活用した授業の実践を重ねた。

＜研究会 開催記録＞

5/10 全体会

5/29 B 部会：これまでのあおぞら財団の教材づくりの経過を共有

7/11 A 部会：大学での授業実践について共有(大学教員 3 人から報告)

7/13 B 部会：西淀川での既存の教材を ESD の観点から分析。今後の教材作成についてアイデア出し。

8/ 4 B 部会：試作教材の検討

8/8-10 開発教育全国研究集会にて試作教材実践

8/31 B 部会：試作実践のふりかえり。今後の方針検討

9/24～ 龍谷大学の清水万由子さん授業の流れ検討・サポート

10/22、11/5、11/19 は栗本がワークショップ実施

9/29 広島修道大学の西村仁志さん授業のオブザーバー

2016 年

3/1 全体会

3/19-20 シティズンシップ教育ミーティングにて試作教材実践

## 2) 学校等ですすめる西淀川の環境学習を支援

- 今年度も小学校 5 年生向けの公害の出前授業を西淀川区内の小学校全校に働きかけ、7 校 363 人を対象に実施した。語り部の授業依頼は昨年度より 3 校増加した。

### <西淀川区内小学校での公害出前授業 実績一覧>

学校名	2015 年度		2014 年度		2013 年度		2012 年度	
	ビデオ	語り部	ビデオ	語り部	ビデオ	語り部	ビデオ	語り部
出来島小	3/2	3/2	○	○	○	○	○	
佃西小	3/8	3/8	○	○		○		○
川北小	2/29	2/29	○		○			
姫里小		2/4		○	○			
姫島小	2/26	3/3			○	○	○	
歌島小	2/24	2/24	○	○				
佃南小 *	2/22	2/22						
柏里小			○					
福小					○		○	
野里小								
大和田小								
佃小								
香簀小								
御幣島小								
全 14 校	6	7	5	4	5	3	3	1
	計 7 校		計 6 校		計 6 校		計 4 校	

公害患者の語り部による授業依頼が増加。区内小学校の半数で実施。

- 「公害・環境学習プログラム検討会」を現場の教職員や専門家などに参加を呼びかけ、開催した。（「ドコモ市民活動への助成金」を活用（2014.12-2015.11））

#### <公害・環境学習プログラム検討会>

- ・5/10 大阪市立磯路小学校 永井健太先生（参加者 21 人）
- ・7/3 西淀川高校 門谷充男先生（参加者 11 人）

- 過去の実績や新たな授業の試みをまとめ、プログラム集を作成した（「ドコモ市民活動への助成金」を活用）。西淀川区内の小中学校に無料配布した他、今後の西淀川での公害・環境学習の促進に活用する。

#### 「西淀川・環境学習プログラム」2015 年 11 月発行

- ・「西淀川公害から学ぶ」
- ・「にしよどがわのかわいい鳥を見にいこう」
- ・『ゴミ』を資源にする方法 廃油回収とリサイクルを考える」

3つのプログラム冊子をバインダーにファイルし区内の小中学校に配布。

- 学校での環境学習の取り組みの相談・授業のコーディネート、および西淀川公害に関する出前授業等を行った。

#### <授業支援等>

- ・10/24 西淀川高校環境フェスタに参加（午前の探鳥会報告）
- ・3/26 大阪教育文化センター環境教育研究会にて報告

#### <出前授業>

- ・9/10、9/16 大阪府立千里高校国際文化科（4クラス）
- ・10/16 大阪市内北ブロック地域研修会（主催：教職員地域研修推進委員会）、会場＝大和田小学校
- ・12/15 西淀川高校（3コマ。内1コマ語り部、1コマワーク）

大阪市内の教職員対象研修会を実施。



## 2. 環境まちづくりの担い手を育成

### 1) 小学生と取り組む自然・環境調査

- 四季調査はこれまでの成果をとりまとめ、研究論文として執筆した。(『りべら』138号、2015年12月)

### 2) 西淀川の自然・歴史を活かした環境学習の場づくり

- 『日本野鳥の会大阪支部』と共催し、矢倉海岸定例探鳥会(毎月第一土曜日)の実施を継続した。
- 日本野鳥の会大阪に協力をあおぎ、野鳥から地域の自然環境を学ぶプログラムづくりに取り組んだ。そのために西淀川区内で子ども向け探鳥会などを開催した。(4/25、10/24。上述の「ドコモ市民活動への助成金」を活用)
- 『中島水道サロン』が5月に完成した「中島大水道まち歩きマップ」を活用し、まち歩きイベントを2回開催した(5/31西淀川編、参加者31人。6/27新大阪編、参加者26人)。また、西淀川区内の小学校校長会で説明するとともに、大阪市内北ブロック地域研修会で資料として配布した。

## 3. 交通環境学習の推進

### 1) フードマイレージ教材の普及

- フードマイレージ教材化研究会メンバーと相談しながら、教材の普及や使い方を検討する。
- 今後、これまでの利用者呼びかけ、教材の活用状況のヒアリングなどを行い、今後の教材開発の参考にする。

## 4. 近畿圏・環境学習ネットワークづくり

### 1) 近畿圏の環境学習の取組を活発にする

- 近畿圏の環境学習に取り組む団体や関係者と、環境学習に関する活動実践について情報交流を行う。
- そのため、「第12回近畿の環境団体情報交流会」(事務局:エコネット近畿)実行委員会に参加する。

### 2) おおさか環境教育ネットワーク会議

- 大阪市環境局の呼びかけによる、大阪市内各地の環境NGO/NPOをはじめ各種団体が行う環境教育、学習や感興保全活動の振興等に係るネットワークづくりに参加した。

### 2016年度に向けた課題

- ① 研修受入・講師派遣のニーズを掘り起こし収益増加をめざす。「公害の経験から学ぶ」価値を発信し、行政・企業職員研修など、新たな可能性を探る。
- ② 西淀川での公害教育は、小学校5年3学期に限らず、土曜授業をはじめ他の位置づけでの実施を提案・発信する。

## <<環境保健>> 公害病患者等の健康回復や生きがいつくりを進める活動

### 「環境保健」の目指すところ

公害患者の健康回復、生きがいつくりに寄与するとともに、ぜん息患者の医療費救済制度の創設をめざす

### 2015 年度時点での到達点(3 年計画からの振り返り)

- 2014 年度に引き続き、(独法) 環境再生保全機構の委託業務として実施した。
- 地域の未認定患者を含めたぜん息患者が支えあえる場(楽らく呼吸会)を西淀川区内の 3 つの診療所(千北診療所、姫島診療所、のざと診療所)で継続している(3 年計画では、実施箇所を 3 か所から 5 か所に増やすことを目標にかかげている)
- 医療従事者向け呼吸ケア・リハビリテーション講習会は実技を含めた内容は好評で、来年度はさらにステップアップを盛り込んだ企画を検討している。
- 新たに、西淀川区医師会所属のクリニックから委員会メンバーに参加。
- 地域内の医療機関への広がりや、行政含め、働きかけをおこなっていく必要がある。

### 環境保健 2015 年度の実績(全体)

#### 1. 呼吸リハビリテーションの普及、地域ネットワークづくり

- (独法) 環境再生保全機構の委託業務として、大阪市西淀川区、岡山県倉敷市を対象地域に、「地域における COPD 対策推進事業(NPO 法人等との協働事業)」を 2014 年度より 3 年計画で実施しており、本年度は 2 年目だった。

##### 1) COPD 患者向け「呼吸ケア・リハビリテーション」講習会

- 各医療機関を中心とした COPD 患者向け講習会を次のとおり開催した。  
【西淀川】のざと(4/10、6/12、8/7、10/9、12/11、2/12) 千北(5/21、7/16、9/17、11/19、1/21、3/17) 姫島(5/22、7/17、9/18、11/20、1/22、3/18)

##### 2) 医療従事者向け「呼吸ケア・リハビリテーション」講習会(年 2 回)

- 第 1 回 12/19(土) 午後 金尾先生(基本編) 座学と実技
- 第 2 回 2/13(土) 午後 福島先生(応用編) 訪問リハ、在宅での呼吸ケア

##### 3) COPD の早期発見への取組

- 8 月より西淀病院の健康診断に COPD 問診票を同封し、検診を促し、約 300 枚チラシを配布したが、受診にはつながらなかった。
- 西淀川区健康いきいき展(10/24)や、西淀病院健康まつり(3/27)にて、COPD チェックのパンフレットを配布した。
- 倉敷では、ミニ健康展、倉敷医療生活協同組合健康祭りで啓発活動を実施。

##### 4) COPD 啓発活動の実施

- 倉敷は昨年度作成した啓発パンフレットを 3000 部増刷した。西淀川では、デザインを新たにすため、検討を開始した。
- ニュースやホームページでの発信は随時更新をおこなった。

##### 5) 検討委員会及び分科会の開催

- 全体検討会、および、西淀川分科会、倉敷分科会をそれぞれ 2 回ずつ開催した。

### 2016 年度に向けた課題

- ① 地域の他の医療機関や行政への広がりをつくる
- ② 対象者(年配者、予備軍など)に応じた適切なアプローチ方法を検討する

## ＜＜国際交流＞＞ 日本の公害経験をいかした国際交流

### 「国際交流」の目指すところ

西淀川公害からの教訓をいかし、我が国の公害経験を世界、とりわけ東アジア地域の多くの人たちに伝え、交流することで、新たな被害を未然に防ぎ、直面している公害・環境問題の解決に向けた取り組みをともに進める。

### 2015 年度時点での到達点(3 年計画からの振り返り)

- 2015 年度は、昨年度よりも環境省からの受託事業の規模を拡大することができた。訪中、及び、中国環境 NGO メンバーを日本に迎え、様々な機関、弁護士、NGO との交流などを行うとともに、シンポジウムにおいて中国の環境について現状と取り組みを報告・意見交換をおこなった。
- 国際交流担当スタッフの増員については、個別の取り組みにおいて外部の人材の協力を得てはいるが、スタッフを雇用するにはいたっていない。

### 国際交流 2015 年度の取組み(全体)

#### 1. 日本の公害経験資料の翻訳、及び、情報発信

##### 1) 翻訳・情報発信

- 視察や交流に際して、研修受入の際に必要なに応じて、既存資料の翻訳をおこなった。

##### 2) 基金創設の PR と寄付協力の呼びかけ

- 朝日新聞社「明日への環境賞」受賞(2007 年 4 月)をもとに、設立した「国際翻訳基金」については、今年度、増減はなかった。(1,861,550 円/2016 年 3 月末)

#### 2. アジアを中心とした環境 NGO 等との活動交流

##### 1) 中国環境 NGO・被害者との交流、中国の公害被害地域への視察

- 2016 年 3 月 14 日～17 日 河北省石家庄市、北京市をおとずれ、中国環境保護法、大気汚染防止法について、ヒアリング等おこなった。
- 2015 年 9 月 21～22 日東アジア気候変動ワークショップ(参加) / 2015 年 9 月 23～24 日蛍光灯回収日中専門家交流会(講演: 林) / 2015 年 9 月 24 日廃食油から石けんを造るプロジェクト推進会及び科学宣伝講座(講演: 林)

##### 2) 韓国をはじめとした東アジア環境 NGO との交流

##### 3) 海外からの視察受け入れ

- 5/13 JICA 中国 全人代メンバー受入
- IATSS フォーラムの研修で、ASEAN9 各国からの研修生を受け入れた。1 回目(6/18～21、18 人)、2 回目(10/19～21、18 人)

### 3. 日本における日中環境問題についての交流会の開催

#### 1) 日中環境問題サロンの開催

- 2016年3月9日、日中環境問題サロン2016を開催した。中国の環境NGOメンバー3人が報告をおこない、ディスカッションした。

### 4. 中国環境NGOと連携した研修事業の実施

- 2016年3月9日～10日、中国の環境NGOメンバーを招聘し、「日中公害・環境問題に関する研修プログラム」を実施した。(中国メンバーは11人)。1日目は座学を中心に、西淀川公害についてレクチャーし、2日目は自転車にて、西淀川地域のフィールドワークをおこなった。

### 5. 公害・環境問題に関する国際協働事業の実施

- 実施せず。

#### 2016年度に向けた課題

- ① 「日中環境問題サロン」を継続して実施しながら、中国をはじめアジアの環境問題に関心のあるメンバーを増やしていく

## <<重点事業>>

- 2009年度より、財団10年の蓄積と弱点、財団の使命という視点からアプローチした将来構想に基づく重点プロジェクト（環境フロンティア講座、自転車を活かしたまちづくり、あおぞらビル1階交流拠点化、情報発信）を3年間実施し、一定の成果を生み出してきた。
- 2012年度から設けている4つの重点プロジェクトに加えて、財団の飛躍的發展を目指して新たに1つの重点プロジェクトを設ける。

### 1. 環境フロンティア講座の開催

- 2016年度は、財団20周年の構想とも連動させた講座企画を検討したが、実施には至らなかった。今後、持続的な経営・運営体制を目指す。

### 2. 資金調達(ファンドレイジング)の強化

- 年2回のカンパを呼びかけたところ年間約67万円の寄附をいただいた。
- 新たに登録した活動支援金サイト gooddo では、3カ月で約7,000円の収入を得た。
- その他、広告看板や携帯基地局への貸出、りべら広告代などの収入があった。

### 3. 西淀川における企業との連携によるエコ・プロジェクトの推進

- 西淀川菜の花プロジェクトの一環として、(株)ニチノーサービスさんから、工場内の土地約500m<sup>2</sup>を無償提供いただき、農地をつくった。
- みてアート2015では、区内企業の協力の下、場所や素材、資金などを提供いただき、協働してアートイベントを行った。

### 4. 東日本大震災支援の取り組み

- 2011年度に実施した東北支援のつながりを活かし、現地NPO等との連携・情報共有を図りつつ、引き続き、被災地の実情に沿った支援を行なった（被災地エコツアーの実施（11月）、被災地支援NPOとの連携、イコバでの東北産の物品販売など）
- 東日本大震災から5年を迎えるにあたり、エコツアーの現地受け入れ団体「三陸ひとつなぎ自然学校」の代表理事・伊藤聡さんによる報告会を開催した（10/10）。

### 5. 財団設立20年構想ワーキング

- 財団設立20年（2016年9月）、和解成立20年（2015年3月）をめぐり、次の10年のあるべき姿についての「財団設立20年構想」のワーキングを立ち上げ、素案づくりを行った。

### III. 情報発信・提案活動・交流

#### 1. 情報発信

機関誌「りべら」の季刊発行、読みやすく親しみやすい紙面づくりのために、読者アンケートを実施した。ホームページは広告バナーを新たに設置し広告費の収入が得られた。情報を効果的に伝えていくためにメール通信「あおぞらエクスプレス」を活用した。毎月初めに定期配信している「月刊あおぞら」はイベントのお知らせやあおぞらイコバの利用状況等財団の今が見えるように充実させた。

ホームページは年間約 66000 ビューとなっている。フェイスブックとツイッターと連動させることで、情報を広く伝えられるように努めている。



#### 2. 提案活動

- 我が国における「持続可能な開発のための教育（ESD）に関するグローバル・アクション・プログラム」実施計画（ESD国内実施計画）（案）に関する意見募集のパブリックコメントを提出した。その後、修正されたESD国内実施計画には、公害教育および公害資料館、公害資料館ネットワークのことが取り上げられることとなった。

#### 3. 交流

- 6月の公害被害者総行動デー、1月の公害デーへの協力をはじめ各地の公害被害者団体や、地域の環境再生に取り組む団体や市民との交流をすすめる。

#### 4. 委員等

- 東大阪市地域まちづくり活動助成金審査会委員（藤江, 2010～）
- 西淀川区区政会議委員（藤江, 2012～）
- 西淀川子どもセンター理事（藤江, 2013～）
- 西淀川区西淀川区地域福祉推進ビジョン策定準備会委員（藤江, 2015～）
- ECOまちネットワーク・よどがわ(事務局：大阪経済大学) 副会長(藤江, 2009～)
- 佛教大学非常勤講師（林 2014～）
- 徳島県阿南市生物多様性ホットスポット選定委員会（田代、2014～）
- 農林水産省「平成26年農村地域生態系配慮技術指針改定検討調査」検討委員（田代、2014～）
- 西淀川区矢倉地区の有効活用に関する検討会議 公募委員（田代、2014～）
- 西淀川区クリーンにしてグリーンなまちづくり推進会議公募委員（田代、2013～）
- NPO法人 エコネット近畿 近畿の環境団体情報交流会実行委員（栗本、2013～）

## IV. 組織

---

### 1. 理事会、評議員会

- 理事会＝第 13 回（2015 年 5 月 31 日）、第 14 回（6 月 17 日）、第 15 回（10 月 25 日）、第 16 回（2016 年 2 月 27 日）
- 評議員会＝第 4 回（2015 年 6 月 17 日）

### 2. 事務局( 研究員・特別研究員 )

- 運営体制の充実のため、理事長・理事・事務局長等が参加する常務会を定期的に開催し、全体方針を検討する。
- 毎週 1 回の事務局会議では、事務局長（任期 2 年、研究員より選出）を中心に、事務局全体で情報を共有し、事業の進捗状況や今後の事業展開、重要事項の素案づくり、業務体制に関する調整、組織運営のあり方などを全員で討議する。
- 小平智子研究員の退職（2015. 3）に伴い、2015 年度は 5 名の研究員（正職員）体制でスタート。2016. 1 の田代優秋研究員の退職に伴い、4 名の体制となった。財団活動をより発展させていくため設けた特別研究員制度を 2015 年度も継続。

### 3. 会員

- 会員数は横ばいで、会員数：個人 138・学生 1・法人 16・団体 16／2016 年 3 月末（未納含む）となっている。会員のうち会費未納者（25）が 3 月末時点で多いので、会費の継続を呼びかけていく。
- また 2008 年よりスタートした、会員同士の交流や、会員の声を直接聞く場としての「会員のつどい（会員総会）」については、本年度は実施にいたらなかった。

### 4. ボランティア、アルバイト・スタッフ

- ボランティアについては、これまで定期的に行っていた「ボランティアの日（毎月第一金曜）」のあり方を見直し、「りべら」発送など具体的な業務の発生時にメール通信「あおぞら EXPRESS」を活用し参加を呼びかけることとした。2015 年度のボランティア参加者は、延べ 15 人であった。
- 研究員の事業をサポートするアルバイト・スタッフについては、活動を進める上で大きな力となっている。毎年開催している事務局長との面談で、財団運営上の課題（研究員のマネジメント能力の向上、業務内容の明確化など）について意見をもらい、また適材適所の業務配置を検討し、業務の効率化をはかりたい。

### 5. インターン

- 8、9 月の夏休み期間を中心にしてインターン生の大学生 6 名受け入れた。（近畿大学、大阪経済大学、桃山学院大学、神戸市外国語大学、東京工業大学）

### 6. 視察・研修の受入、講師派遣

- 環境省職員研修、JICA（国際協力機構）研修、司法修習生や大学ゼミなどからの視察・研修の受入を引き続きおこなった。

- 西淀川公害をはじめ地域再生の取組みなどに関する授業や講演会、講座等への講師派遣をおこなった。
- これまでの実績の分析と新規開拓を試み、件数を増やしていきたい。

## 7. あおぞらビルの管理・メンテナンス

- 屋上の防水工事、エレベーターの改修工事を実施。
- 耐震診断調査の実施に向けて調整中。

## V. 財務・法人体制

---

- 2015年度の基本財産受取利息は約330万円だった。
- 各種積立金からの取崩は約480万円、次期繰越金の減額は約650万円で、合わせて約1千万円の資産減額となった。基本財産、各種積立を合わせると約2億6千万円の資金となっている。
- 本年度は屋上の防水工事（約40万円）、エレベーター改修の前払い金（約67万円）を修繕積立金より取り崩した。
- 2011年7月に公益財団法人化し、毎年度、「事業計画・予算」「事業報告・決算」を内閣府へ提出するとともに、2015年7月には「役員変更」「定款変更」の手続をおこなった。